

日本地衣学会 No.164

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	639
日本地衣学会第20回大会報告／小峰 正史	639
日本地衣学会第20回大会に参加して／松淵 優子	641
日本地衣学会第20回大会に参加して／平野 敦春	641

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

日本地衣学会第 20 回大会報告

Report of the JSL 20th Annual Meeting (Online, 5 - 11 Dec. 2021) / by KOMINE Masashi

>>>>>>> 小峰 正史：第20回大会実行委員長，秋田県立大学

日本地衣学会第 20 回大会が，2021 年 12 月 5 日から 11 日まで，オンライン形式で開催されました。

新型コロナウイルスの蔓延により，2020 年に愛媛にて開催予定の大会が中止となりました。1 年を経過してなお，参加者が一堂に集う対面形式の大会を安全・確実に実施するのは困難と判断したため，極めて異例な形での開催となりました。昨今の情勢から，ネットワークを利用した遠隔会議も広く社会に浸透しつつあり，直接顔を合わせずとも容易に議論ができるようになってきました。他の学会も様々に工夫をしながらリモート形式で大会を開催しており，むしろ現地に出向く必要がない分，参加しやすくなった人もいます。一方で，やはり学術集会は発表者の講演を直接聴き，質疑をし，さらに休憩時間や懇親会でじっくり議論できた方が得るのが大きいとも感じます。一

刻も早くこのパンデミックが収束することを願わずにはいられません。

今次大会の講演は，発表者にプレゼンテーション動画を送っていただき，それを“Vimeo”という動画配信プラットフォーム上にアップロードして，そのアップロード動画を参加登録者に視聴していただく形式で実施いたしました。参加登録者にアクセスアカウントを発行して講演用サイトにログインしていただき，会期中の任意の時間に講演を視聴の上，Vimeo システムのコメント機能により質疑応答を行っていただきました。講演数は 9 件，参加登録者は正会員 18 名，学生 6 名，非会員 3 名に大会事務局 3 名を加えて計 30 名でした。特殊な形での開催であったにもかかわらず，テキストベースでの活発な議論が行われていました。また，9 件中 5 件が学生による発表であったのは特筆

すべきことで、若い研究者が地衣研究に関わっていることを大変喜ばしく思います。

通常の大会では開催初日に評議員会、総会、懇親会が行われますが、今回は最終日の12月11日に遠隔会議システムの“Zoom”により、評議員会、総会を開催しました。また、懇親会の代わりとして、総会終了後に“Spatial Chat”というシステムを用いてオンライン交流会を開催しました。懇親会会場で立ち話をするような雰囲気が醸し出されて、参加された皆様にもそれなりに楽しんでいただけたことと思います。

今大会を総括すると、本来9月開催予定の大会が12月までずれ込んだことをはじめ、至らない点が多々ありました。しかし、リモート会議システムの設定・準備・運営を一手に引き受けた原光二郎氏、会計処理担当の川上寛子氏の尽力のおかげで、実行委員3名の体制でできる範囲では最低限の責任は果たせたのではないかと思います。そして、パンデミックが収束すれば不要になるとは言え、リモート大会の実施例をお示してきたことも成果のひとつと考えています。

最後になりましたが、学会員の皆様、大会への参加、ご協力まことにありがとうございました。そして第21回大会は従来通りの大会が実施できますことを切に祈っております。

* * *

【付記】第20回大会の講演9件は以下のとおりでした（発表者の敬称略）。

[1] 広島県宮島で見つかった生物地理学上興味深い地衣類について

○松坂 啓佑、坪田 博美（広島大学大学院・統合生命科学研究所）

[2] 房総の地衣類誌

○坂田 歩美¹、原田 浩¹、伊左治 鎮司^{1,2}、加賀山 翔一²

（¹千葉県立中央博物館、²千葉県生物多様性センター）

[3] 日本産地衣類の総合的なデータベースの整備とウェブ公開

○原田 浩¹、原 光二郎²、木下 薫³、坂田 歩美¹（¹千葉県中央博、²秋田県立大、³明治薬大）

[4] 日本産地衣類の LC/MS による化学成分の分析と分類への応用－1

○木下 薫¹、谷川 寛典¹、藤原 恒司¹、坂田 歩美²、原田 浩²、原 光二郎³、河崎 衣美⁴（¹明治薬大、²千葉県中央博、³秋田県立大、⁴奈良県立橿原考古学研究所）

[5] 地衣類に内生する微生物群の培養と多様性解析

○野手 友貴¹、松淵 優子¹、Barış GÖKALSIN²、川上 寛子¹、小峰 正史¹、原 光二郎¹（¹秋田県立大学・大学院・生物資源科学研究科、²トルコ・マルマラ大）

[6] 地衣類由来培養物が産生する抗酸化成分の探索と分析

○松淵 優子、野手 友貴、川上 寛子、原 光二郎、小峰 正史（秋田県立大学・大学院・生物資源科学研究科）

[7] 緑膿菌のクオラムセンシングを抑制する地衣類の培養物由来成分の探索

○川上 寛子、阿部 杏樹、原 光二郎、小峰 正史、福島 淳（秋田県立大学）

[8] ヒメレンゲゴケから分離された担子菌酵母はウメノキゴケ抽出物に生育阻害を受ける

○平野 敦春、八須 匡和、Nguyen Ngoc Hung、Nguyen Phuong Thao、小竹 ひとみ、西山 千春、清水 公徳（東京理科大学大学院・先進工学研究科生命システム工学専攻）

[9] 地衣類の産生する抗菌活性物質の探索

○永田 彩奈、平野 敦春、八須 匡和、Nguyen Ngoc Hung、Nguyen Phuong Thao、西山 千春、清水 公徳（東京理科大学大学院・先進工学研究科生命システム工学専攻）

日本地衣学会第 20 回大会に参加して

My Impression for the 20th Annual Meeting of JSL, Dec. 2021 / by MATSUBUCHI Yuko

>>>>>>> 松濑 優子：秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期課程 1 年

今回初めて地衣学会の大会に参加させていただきました。私にとって初めての学会大会、初めての学会発表でした。新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、多くの学会大会が中止・延期になったことと思います。先輩方から学会大会の話聞く機会も減り、あまりイメージがついていませんでした。また今回の大会は、大学の学外の方との初めての交流で、とても緊張していました。

私は大学に入り、地衣類と出会いました。高校の教科書では“ツンドラなどに生育する”と説明があり、名前だけ知っている程度でした。研究室で本格的に地衣類を扱うようになり、毎日興味深く取り組んでいます。今では行く先々で地衣類が目いくようになり、これまでとは違う視点を得られたことを嬉しく思います。

私は地衣類から地衣菌や藻類、その他の微生物をまず分離、成分を分析し、次にそれらを共培養すると成分産生にどのような変化があるのかを明らかにしようとしています。今回は地衣類から微生物を分離し、そ

の成分分析までを発表させていただきました。複数の先生方からコメントをいただき、嬉しく励みになりました。また他の方々の発表を見て、私と同じく化学的なアプローチで地衣類を見ている発表は、内容はもちろん、図の示し方や説明もとても勉強になりました。私は分類についてまだまだ勉強が必要ですが、分類指標やその観察での注意点を聞くと、先の研究者がどれだけ注意深く観察・比較し、違いとなる部分を見出してきたのか実感しました。オンラインでの発表は多くの人の前で話したり、実際に顔を合わせて交流したりという体験はできませんでしたが、他の方々の発表を何度も見直すことができました。また発表者としては、コメントを文字でいただけたことでじっくり考え、回答することができました。

最後にこの場を借りて、今回の大会を通して様々なことを教えていただいた先生方に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が終息し、皆様とお会いできる日が来ることを願っています。

日本地衣学会第 20 回大会に参加して

My Impression for the 20th Annual Meeting of JSL, Dec. 2021 / by HIRANO Nobuharu

>>>>>>> 平野 敦春：東京理科大学大学院 先進工学研究科生命 システム工学専攻 修士課程 1 年

私は今回初めて地衣学会大会に参加させていただきました。大学 4 年生の時に配属された研究室にて地衣類というテーマで研究を 1 年半ほど進めてまいりまし

た。今回の学会大会における他の方々の発表内容や私に寄せられた質問内容などを拝見して私はまだまだ地衣類について知らないことばかりだと改めて感じました。

大学内で地衣類の研究をしている方はごくごく少数であるため、地衣類に関する研究報告や実験手順などに直接触れる機会がほとんどありませんでした。今回、地衣学会大会に参加させていただいたことで他の方の発表を聴けたことがとても新鮮でありそして良い刺激になりました。論文を読むだけでは気づけないような様々な視点を得ることができ今後の実験において重要なことややるべきことが見えてきました。実際、私の実験方法に関しましては担当教員の清水先生と論文で知れた情報をもとに構築していましたが、今回様々な発表者様の実験方法や理論に触れていく中で私自身の実験についてもブラッシュアップできると考えました。私は地衣類の研究を始めて2年目ですが、長く地衣類の研究に携わっている他の発表者様の実験理論や方法、結果などから私はまだまだ地衣類について知らないことばかりであると改めて感じました。ま

た地衣類の種類についても私の知らない種が多く、地衣類の多様性とそれらの特徴や実験についても知ることができました。現在私が扱っている地衣類以外に意識を向けることは少ないのですが、身近に生育している他の地衣類も含めて興味を持って観察してきたいという風に感じました。

今回の発表で頂いたコメントの中での的確なアドバイスや鋭い指摘をいただくことができました。私と同じ様に地衣類を研究する方々とコメントを通して交流していく中で自分では思いつかなかったアイデアや気付きを得ることができました。今回の経験を今後活かして研究を進め更なる結果を出していければと思います。最後にこの場をお借りして、本大会を通してお世話になりました先生方、そして参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関係する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp (坂東 誠)

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 164, pp. 639-642: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., published by the Japanese Society for Lichenology, 1 Mar. 2022.

日本地衣学会ニュースレター164号

発行日：2022年3月1日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館内